

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24年 5 月 30日現在

機関番号：34427

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21510296

研究課題名（和文）性教育・エイズ教育に携わる専門職の性意識に関する質的研究

研究課題名（英文）A qualitative research focused on professional health care educators' conscious towards providing education on sexual health and/or HIV/AIDS prevention in Japan

研究代表者 松原弘子（MATSUBARA HIROKO）

大阪経済法科大学・アジア太平洋研究センター 研究員

研究者番号：40465654

研究成果の概要（和文）：本研究では、性教育や HIV/AIDS 予防啓発教育授業等（授業等）を職業として実施する立場にある医師、保健師、教師などの専門職が、授業等を実施する際に直面する困難の質を明らかにし、これらの専門職が困難を乗り越えるプロセスを明らかにしようと試みた。1983年以降に発表されたウェブデータベース上の文献研究の結果は、日本においては、授業等を扱う調査は2001年以降増えているが、実施者を調査した研究は少ないことが示された。また、職業として熱心に授業等を実施してきた専門職 23 名のインタビュー分析の結果、授業実施にあたっての個人の性意識の葛藤は強く意識化されていないことが示された。専門職が授業等に取り組もうとする熱心さは、児童・生徒や住民のニーズに応えようとする職業的な責任感を軸として、身近に尊敬できるロールモデルがいた、新しいことに取り組める環境（職場内、職場外）が整っていた、予算がついた、などの条件が加わって保たれていた。個人の思想信条が授業等に影響を与えたと答えた事例はなかったが、職業的責任感にジェンダー差が影響している可能性は示唆された。したがって今後、男性の専門職のインタビューを追加して、調査結果を再検討する必要があると考えられた。

研究成果の概要（英文）：This research tried to portrait emotional conflicts of professional health care educators, such as public health doctors, nurses, midwives, teachers, school nurses, when they provide sexual and/or HIV/AIDS prevention programs in their classes or trainings, and to find the processes how they overcome those difficulties. Systematic review of literatures since 1983 can be found on the three websites, which are “Ichushi Web”, “CINII” and “Webcat Plus”, and they show the number of literatures focused on sexual health education has increased since 2001 in Japan. However, it also tells us that there are few qualitative researches about educators. In addition, the result of the interviews of 23 educators, who dedicated sexual health programs since 1997, revealed that those who tried to provide programs diligently did not feel strong conflicts between their own morals and their students' or pupils' sexual behaviors. Their motivation was kept by their occupational responsibility for educational needs to students or citizens, only with the support of environmental factors, such as having respectful and close role models, positive atmosphere of the workplaces where they can challenge the new methods, good accessibility to new information, and enough budget allocation. There were no cases which referred that individual thoughts and believes about their own sexual morals and behaviors affected the quality of their programs. However, several cases showed the possibility that gender difference might influence on their mind of professional

responsibility. Therefore, it concludes that further research focusing on male professional educators is needed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
21年度	700,000円	210,000円	910,000円
22年度	1,100,000円	330,000円	1,430,000円
23年度	500,000円	150,000円	650,000円
総計	2,300,000円	690,000円	2,990,000円

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：性教育、ジェンダー、セクシュアリティ、性感染症予防、性意識、性行動

1. 研究開始当初の背景

本研究は、性教育、HIV/AIDS 予防教育、性行動に関連した健康教育（以下、「授業等」）を実施している専門職、すなわち医師、保健師・助産師、教員及び養護教諭、非営利団体職員等（以下、専門職）が授業等を実施しようとする際に直面していると想定された、価値の葛藤とその克服の過程を知ること、性教育等に携わる人材育成に役立てようとするものであった。

性教育等に限らず、教育カリキュラムの開発・評価に関する研究には、教育前後の受講者（情報の受け手）の意識や行動変容に注目し、効果を数量化して検証しようとするものが多い。しかし、全く同じ授業モデルを用いても、実施者がそのモデルの開発者（研究者）である場合と、その授業モデルを学んだ訓練生（養護教諭）である場合には、生徒の行動変容（教育効果）に差が生じることが報告されている（木原雅子ら 2002「地方 A 県全域の若者に対する多段階 AIDS 予防介入研究」HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究平成 14 年度報告書 286-330, 2003）。この結果は教育実施者の熟練度が教育効果に影響していることを示している。またこのような授業等では、性行動に関連する倫理的な諸問題も扱うため、実施者の倫理観のあり方や、授業等に取り組む熱意や意欲が教育効果に影響している可能性も考えられる。

しかしながら、授業等を実施する専門職の心理状態・認識を質的に扱った先行研究は絶対数が少ない。さらに、指導者の養成や意識啓発を目的とするカリキュラムの実施効果の研究では、研修理論やメソッドがどのよう

に理解されたかに注目する傾向があり、授業等を進める専門職の心理に質的に迫ろうとした研究はほとんどみられなかった。そこで、授業等を実施する専門職の性行動や性規範に対する意識のあり様（以下、性意識）に焦点をあてた質的研究を行い、専門職の性意識が、授業等の実施に与えている影響を探ることで、今後の専門職育成に資する知見を得ることにした。

2. 研究の目的

本研究は、授業等に取り組む専門職の性意識に焦点を当て、日本社会において授業等の実施を担っている専門職がどのように自身の性意識を確立させ、他者に伝えようとしてきたかを分析することを目的とした。本稿で言う性意識には「性」という日本語から想起される種々の概念の整理・認識様式を包括的に含めた。

3. 研究の方法

(1) 文献研究

医学中央雑誌 Web データベース（以下、医中誌 Web）、国立情報学研究所論文情報ナビゲータ（以下、CINII）、国立国会図書館データベース（以下、Webcat Plus）を用いたシステムティックレビューを行った。検索期間を、医中誌 Web でデータベース化されている 1983 年以降とし、「性教育」「原著」「抄録あり」で検索された論文を得た。この検索では、「女性教育」のように、「性教育」という語が含まれた論文も検索されてしまうため、「性教育」で検索された文献や書籍をリス

ト化した後、「性教育」を一語として検索していない文献の全部と、海外の報告や事例紹介を除き、国内の「性教育」を扱った論文数の変化を見た（検索結果1）。

商業誌の記事も含み、原著論文に限定した検索ができないCINIIでは、「性教育」で検索したのち（検索結果2）、特集や解説、書評など、タイトルや媒体から研究論文とは考えにくい文献を除いた数を研究論文数（検索結果3）とした。Webcat Plusでは、「性教育」をキーワードに一次抽出を行った後、次の条件の書籍の数を除いて、国内の性教育に関する出版物数（検索結果4）とした。除外された出版物は、外国の視察報告や翻訳された書籍、ポルノを含む小説、教育学の概論や総説、大学の教科書等、個人の体験記やエッセイ、国立女性教育会館の出版物、出版社の書誌目録、及び、タイトルや目次からは性教育との関係が読み取れず、なぜ検索されたのかが不明な書籍である。なお、子どもの性教育を目的に描かれた絵本や物語、成人向けの性の指南書は数に含めたほか、発行年が異なる同一タイトルの書籍は再版とみなして数えた。

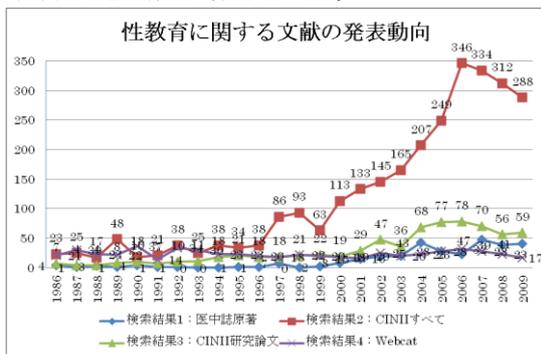
(2) インタビュー調査（質的研究）

まず、医療福祉を学ぶ大学1年生男女6名に予備的インタビューをもとに、インタビューガイドを作成した。次に、およそ1997年以前に専門職として入職し、職業として授業等に熱心に取り組んできた専門職23名（医師4名、臨床検査技師3名、保健師1名、助産師1名、養護教諭9名、大学教員2名、教師2名、NGOワーカー1名）にインタビュー協力を依頼した。依頼はスノーボール形式で、関東及び東北地方で授業等を進めている専門職に限定して進めた。23名の中許可が得られた22名についてインタビューを録音、文字におこしたテキストを作成した。そのテキストを繰り返し読み、授業等に取り組む動機づけとなった体験や事象を軸に個性記述としてまとめて、授業等の実施を継続させられた要因の共通性を分析した。

4. 研究成果

(1) 文献研究の結果

「性教育」をキーワードに検索した文献数は、医中誌WebとCINII上では2000年以降に発表数が増えていた。



医中誌Webで検索された原著論文397編のうち、2000年以前に発表された論文は40編で、大半が2001年以降の発表であった（検索結果1：青）。CINIIでは2003年以降の伸びが顕著で、「七生養護学校事件（注：東京都立七生養護学校の職員が知的障害をもつ子どもに行なっている性教育が「過激すぎる」と、校長以下職員が降格処分を受けた事件。処分は不当とする訴訟が起きた）」によって一般雑誌の記事が増えた影響と考えられた（検索結果2：赤）。一方で研究論文とみなせる文献（検索結果3：緑）は一般記事ほどには伸びていなかった。

一方、Webcatで検索した書籍等の出版物の発行数は1990年代からほぼ横ばいで、性教育教材や指導者向けの書籍の出版ニーズは、1990年代後半からあまり変化していないと推測できた。

レビューで得られた研究論文は、A.学生を対象にした授業や講座の効果の調査、B.若者や母親を対象にした、性教育のニーズや性に関連する意識や知識の調査、C.性行動の実態調査、D.性教育の内容の調査、E.性教育を実施する側の意識や人材育成についての調査、F.特殊な事例研究、G.文献レビューや研究法研究などに分けられた。しかし多くはA.からC.の調査であった。

以上のことから、日本においては性教育の是非を論ずる記事は多いが研究論文は少なく、授業等の実施者に焦点を当てた調査も不十分であると結論付けられた。また、性教育を扱う新規の出版は1990年代以降増えていないことから、専門職が授業等の実施にあたり手がかりとなる書籍や先行研究も十分なされていない可能性が示唆された。

(2) インタビュー調査の結果

調査結果は平成24年度中に発表予定であるが、おおむね次のような結果が得られた。

- ① 性意識の葛藤と克服のプロセス：本調査の対象者においては、授業等で扱う性的問題と自身の性意識の間で倫理的な葛藤や悩みを経験した語りが聴取できたのは2例のみであった。専門職として学習を重ねる過程で性意識が修正された事例も2例みられたが、研究計画時に想定していた性意識の葛藤と克服のプロセスについて詳細に語った事例はなかった。授業等の実施上の困難は、自身の性意識ではなく、児童・生徒や住民ニーズに応じて問題解決にどう導くかという実践上の悩みとして捉えられていた。
- ② 授業等実施の困難さの解決：養護教諭は、身近にロールモデルがいた、職場

内外に新しいことに取り組んだり学んだりできる環境が整っていた、などを解決の要因にあげ、行政職員は職種を問わず、予算を条件にあげる傾向がみられた。

- ③ ジェンダー差との関連：いずれの専門職にも専門職としての価値観や責任感が熱心さの動機づけであると語る傾向がみられたが、男性が専門職の責任のみを動機としているのに対して、女性には職業的責任に加えてジェンダー平等や母親役割などの社会的責任や役割意識なども動機づけになっていると応える傾向がみられた。

(3) 考察

本調査では、当初の研究目的で明らかにしようとしていた、専門職における性意識の葛藤と克服のプロセスを明らかにすることはできなかった。しかしながら、性教育等に熱心に取り組む意欲や意志力、伝える側の意図の多様な変化を記述でき、今後の専門職育成に資するデータが得られたと考える。

授業等を実施する専門職は、それぞれに実践上の葛藤や悩みに直面していたが、その困難さを、目の前のクライアント(生徒、患者、一般市民など)に対し、専門職として最善を尽くすという職業意識に意味づけて説明されることが多かった。個人の性意識との葛藤は語りの中では強調されず、個人的な体験が実践に影響を与えていたとしても、具体的な語りとして表出されない以上、性意識を軸にプロセスをモデル化することは現実的ではないと考えられた。

そこで、得られたデータを、授業等実施者の動機付けと困難の多様性に焦点を当てて分析した結果、専門職が、対象となる児童・生徒や住民ニーズに応えようとする職業的な責任感を軸として、ロールモデルとなる指導者や協力者との出会い、職場の同僚や家族の理解や支え、書籍や情報へのアクセシビリティなどの環境要因によって熱意を保ち、継続的な授業等の実施に取り組んでいることが明らかになった。

また家族関係や成育歴、性格などの個人特性は実践に影響を与えていると考えられたが、個人の特性と実践への動機付けを関連させた語りは女性においてのみみられ、男性は、個人的な体験を語ったとしても、実践上の動機付けとは結び付けていなかった。

このことは、授業等への熱心さや動機づけにジェンダー差がみられる可能性があることを示しているが、現在までに聴取したデータ22名の中に男性が4名と少ないため、このデータを持ってジェンダー差と関連付けることはできない。2011年度に男性専門

職のインタビューを追加し検討する予定であったが、東日本大震災の影響で該当インタビューの日程が調整できず、延期となっている。よって今後は、これらの男性専門職のインタビューデータを追加しながら、意欲や熱意に対する意味づけ方のジェンダー差について検討していく予定である。

(4) 今後の研究の方向性への示唆

この調査では、日本において授業等が盛んにおこなわれるようになったと考えられる1990年代に入職した、40代から50代前半までの専門職を主な対象とした。そして別の研究課題において(松原、「児童養護施設における性教育の実施体制に関する研究」、2011)、30代より若い専門職には性意識の葛藤はあまり見られないことが明らかになっている。したがって、授業等を実践するプロセスにおいて、自身の性意識との葛藤及びその克服を明らかにしようとするなら、70代以上であって、授業等にあまり積極的に取り組んでこなかった専門職を対象とした調査が必要と考えられた。

しかしそのような調査は、実施可能性及び今後に資する知見が得られる可能性のいずれも低く、有益な調査ではないと考える。そこで本研究においては、将来の授業等を担う専門職の育成に資するという調査目的に照らして、以下の通り研究の方向性を変更し、継続的な調査を進めていく。

- ① 専門職のジェンダー差が実践に与えている影響に関する調査：本調査では十分な数が得られていない助産師と男性実践者のインタビューデータを取り、ジェンダー差と性意識の関係を探る。
- ② 専門職育成に必要な環境条件に関する調査：授業等の取り組みが地域の中でシステム化されている群馬県、神奈川県の実践者育成環境を、予算配分の仕組みも含めて比較調査し、効果的な育成のためのフレームワークを作成する。
- ③ 実践者の主観的な語りの分析から、授業等に取り組む熱意が促進されるプロセスを概念モデルとして生成する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

- ① 松原弘子、豊永由希子、岩尾總一郎、岩下清子、Systematic Sex Education Training Program Needs for Workers of

- Sexually Abused Children's Residential Facility in Japan、アジア太平洋ソーシャルワーク会議、2011年
- ② 松原弘子、日本の児童養護施設における性教育の研究動向—出版傾向の比較に基づく文献検討—、日本思春期学会、2011年

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.tencai.org>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松原 弘子 (MATSUBARA HIROKO)

大阪経済法科大学・アジア太平洋研究センター

一・研究員

研究者番号：40465654

(3) 連携研究者

岩下 清子 (IWASHITA KIYOKO)

国際医療福祉大学大学院・保健医療学研究

科・教授 (2012年3月まで)

研究者番号：80337443